人文分野における日本地名辞書の構築と地名属性の特徴分析

桶谷　猪久夫
大阪国際大学　国際コミュニケーション学部

近年の地理情報システムの急速な普及により、考古学、民俗学、歴史学、地域研究といった人文科学の各分野においても、デジタル化された地図などの地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている。デジタル地名辞書の基礎となる「大日本地名辞書」は、吉田東吾が 13 年間で書き上げ、1907 年に完成した全国の地誌で、5,580 頁以上、1,200 万字の地名辞書であり、その構築とデータベース化を実現した。また、延喜式巻 9 と巻 10（延喜式神名帳）に記載された神社（式内社）2,861 社とそこに鎮座する神の数 3,132 座のデータベース化とそれらの位置情報等との統合も実現した。さらに、我々が本地名辞書に付与した地名属性からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況等について述べる。

The Development of the Gazetteer of Japanese Place Names based on Humanities, and the Feature Analysis of Place Name Attribute

Ikuo Oketani (Osaka International University)

With the recent spread of GIS, the correlation of the geographic information with digitized maps and satellite images, has become effective in the study of humanities, particularly archaeology, history, and area studies.

Therefore, we developed the database for the index of *Dainihon Chimeijisho* (*The Dictionary of Place Names in Greater Japan*) edited by Togo Yoshida in 1900 and completed in 1907. Also, we merged Shikinaisya (Shrines registered with Jinmyocho of Engishiki, 2,842 shrines) with Dainihon Chimeijisho. Furthermore, we analyze the feature of the place name and those distribution by using the place name attribute that is the data item of the dictionary. We constructed the Japanese Historical Gazetteer using OpenText (DBMS), and record structure is adopted XML.

1．はじめに

近年の地理情報システム(GIS:Geographic Information System) の急速な普及により、考古学、民俗学、歴史学、地域研究といった人文科学の各分野においても、デジタル化された地図などの地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている。このような状況下で、我々は歴史的なデジタル地名辞書等の作成、有効なデータベース化と共同開発した地理情報共有システム (HuMAP :Geographic Information Sharing System for Human) とのインターフェースを開発した。デジタル地名辞書の基礎となる「大日本地名辞書」は、吉田東吾（1864 年～1918 年）が 32 歳から 44 歳にわたる 13 年間で書き上げ、1907 年に完成した全国の地誌である「大日本地名辞書」（全 11 巻）、5,580 頁以上、1,200 万字の地名辞書であり、その構築とデータベース化を実現した。また、延喜式巻 9 と巻 10（延喜式神名帳）に記載された神社（式内社）2,861 社とそこに鎮座する神の数 3,132 座のデータベース化とそれらの位置情報等との統合も実現した。さらに、風土記編纂においては年代および内容が官命により規定されており、その中に「畿内七道の国名、郡名、郷名には好字（漢字２字の嘉き字）を付けよ、とある。出雲風土記に対してこれらがどのように改名され、現在の地名との関連からどのように残っているかを分析する。最後に、我々が本地名辞書に付与した地名属性からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況等について述べる。

2．日本地名辞書データベース構築の目的と直接対象とする各文献

最近、考古学、民俗学、歴史学、地域研究といった人文科学の各分野においても、デジタル化された地図や地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている。また、我々が共同開発した地理情報共有システム（HuMAP）の基礎データとしてのデジタル地名辞書のデータベース化と GIS とのインターフェースの実現は必要不可欠な状況になってきた。

以下に、日本地名辞書データベース構築において直接対象とした各文献を簡単に説明する。

（1）大日本地名辞書（吉田東伍著）[31]

「大日本地名辞書」は、明治33年に初版が発行された日本で最初の本格的な地名辞書であり、国土の国名、郡名、山川、湖沼、港湾などの地名に関する考証・変遷などが詳しく解説されている。索引には53,676に及ぶ地名が「漢字」と仮名により記述されている。

本地名辞書データベースでは、大日本地名辞書の索引部をベースに、地名の漢字、仮名ヨミ、ローマ字表記、国・郡・郷、地名の形状、地名属性など地理的包含関係、現在の市町村との対応付け（平成大合併も含む）、緯度・経度を付与しデジタル化を行った。さらに、地名の変遷情報についても可能限り付与した。

（2）式内社[4,5]

延喜式全50巻のうち第1巻から第10巻が神祇関係（神祇式）で、第9巻と第10巻が延喜式神名帳といわれ、そこに記載された神社を式内社と言い社格の一つとされ、当時朝廷から「官社」として重要視された神社であることを示している。延喜式神名帳に記載された神社（式内社）は全国で2,861社で、そこに鎮座する神の数は3,132座である。「神名帳」とは、古代律令制における神祇官が作成していた官社の一覧表のことあり、そこには国名、郡名別に神社が記載されており、また祭神、社格なども記載されている。

（3）出雲風土記[6]

風土記は、第43代元明天皇の和銅6年(713年)における撰録の官命に基づいて、各国の国庁において順次、「解文」形式を主体とした風土記が編纂され言上された。当時の全国60余りの国すべてについて風土記がつくられたと思われるが、現在まで残っているのは「出雲国風土記」、「常陸国風土記」、「播磨国風土記」、「肥前国風土記」、「豊後国風土記」の5か国風土記と諸書に引用された逸文数十か条がある。年代および内容が官命により規定されており、それは次の5項目であり、(1) 畿内七道の国名、郡名、郷名には好字（漢字2字の嘉き字）を付ける、(2) 郡内に産する産物(鉱物・植物・動物など)について色目（物産品目）を筆録する、(3) 土地の肥沃状態、(4) 山川原野（自然地）の名称の由来、(5) 古老の相伝する旧聞異事（伝承）、について筆録文書として言上報告させた。出雲国風土記は、巻首の総記と各郡記と巻末記の3部を共に有する唯一の巻本である。ここでは、和銅6年（713年）5月に発せられた官命の第1項で、「畿内と七つの道との諸（もろもろ）の国・郡（こおり）・郷、名を好（よ）き字を著（つ）けよ」とある。どのように改名されたかについて分析する。

3．地名辞書データベースの概要と検索機能

地名辞書の収録巻数と収録数（表 1）を示す。総数が若干異なるのは、地名が索引部にないが本文に出現したものは番号99999で追加したためである。

第1巻　凡論・索引
第2巻　上方　（現在の近畿地方）
第3巻　四国・中国
第4巻　西国　（現在の九州地方）
第5巻　東国・北国　（現在の中部地方）
第6巻　坂東　（現在の関東地方）
第7巻　奥羽　（現在の東北地方）
第8巻　琉球・台湾・北海道・樺太

表 1. 地名辞書索引部の地名(漢字と仮名）の総数

	地名数
日本(Japan)	52,547
北海道(Hokkaido)	2,585
琉球(Ryukyu)	879
その他(Others)	49,083
樺太(Sakhalin)	467
台湾(Taiwan)	942
合計(Total)	53,956

大日本地名辞書データベースは近年有力な研究基盤となっている Web 上で設計し、各種の項目を利用し検索できるように開発・構築した。つまり、Web 上から大日本地名辞書での旧国名、郡名、町村名、郷名、神社名、寺院名、河川、湖沼、港湾、山、岳、峠なども検索可能であり、その位置情報（緯度、経度）と日本国土地理院の25,000分の1の地図情報との連携化を実現した。

まず、我々が設計した各データ項目を下記に示す。

・ID：全レコードについてユニークな数字

・地名：漢字、仮名表示、ローマ字表記
・郡名：地名が包含される旧郡名、漢字、仮名表示、ローマ字表記
・国名：地名が包含される旧国名、漢字、仮名表示、ローマ字表記
・比定地名：地名に対応する現在の地名、漢字、仮名表示、ローマ字表記
・平成大改訂の地名：漢字、仮名表示、ローマ字表記
・形状：地名が表す場所が、点、線、面であるかの区別
・位置記述法：点、線、矩形、多角形
・緯度：地名を代表する地点の緯度
・経度：地名を代表する地点の経度、記述法は緯度に準ずるものとする。
・地名属性：行政地名、山、岳、河川、湖沼、湾、建物（神社、寺院）、橋など
・上限時代：その地名が有効であった上限年代(yymmdd)
・下限時代：その地名が有効であった下限年代(yymmdd)
・大日本地名辞書の巻号、該当ページ（拡張を考慮）
・備考：緯度・経度・地名の比定に関わる情報

基礎資料である大日本地名辞書の索引部の各地名を１レコードと見なし、各種の項目情報での検索を実現するために前述の各種データ項目を定義・作成している。

Web ブラウザを利用し、XML タグを有効に利用した、効率的で融通性のある検索を実行するため、データベース管理システムとして OpenText 社)を格納構造として利用し、それに備わっている高速テキスト検索に有効なツールで、コマンド・モードで実行可能な高速検索エンジン PAT70 を利用した。我々が設計した XML の例を以下に示す。

```
  <?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
- <togo>
- <vol no="2">
        ・
- <item pid="43024">
    <itemcountry>山城</itemcountry>
    <itemcounty>宇治郡</itemcounty>
    <countyreading>ウジ</countyreading>
    <placename reading="マンプクジ">万福寺</placename>
    <pname1>宇治市</pname1>
                ・
    <shp>1</shp>
    <loc>1</loc>
    <lat>34.54.53</lat>
    <long>135.48.22</long>
    <altname>黄檗山萬福寺</altname>
    <parent />
    <attribute>13</attribute>
    <page>239</page>
    <remarks />
    </item>          注：紙面の関係で一部省略
```

具体的な検索例として、日本三禅宗(臨済・曹洞・黄檗)の一つ、隠元禅師など中国の名僧を原点とする黄檗宗の大本山で京都府宇治市にある「黄檗山万福寺」を検索文字列（キーワード）として指定し、検索した結果を示す。検索方法は、プロジェクトの HP、pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei を立ち上げ、検索メニュから検索対象の国名を指定（山城）、該当する地名（万福寺）を入力し、検索した例を図１に示す。図２は検索結果表示画面であり、検索後「山城」と「万福寺」でヒットした一覧が表示される。この場合は、ヒット数（：１）が表示され、その内容が項目毎に表示されている。左側の「詳細」をクリックすると該当する「万福寺」の地名、ヨミ、国名、郡名、緯度、経度、現在の住所や地名属性（建物・神社）等が詳細に図３に表示される。「地図」情報の「国

土地理院地図を表示」をクリックすると、その所在情報が国土地理院 MAP（25,000 分の１）で、図４に示すように詳細 MAP が表示される。地図上の楕円で囲まれた部分が「万福寺」の所在地である。

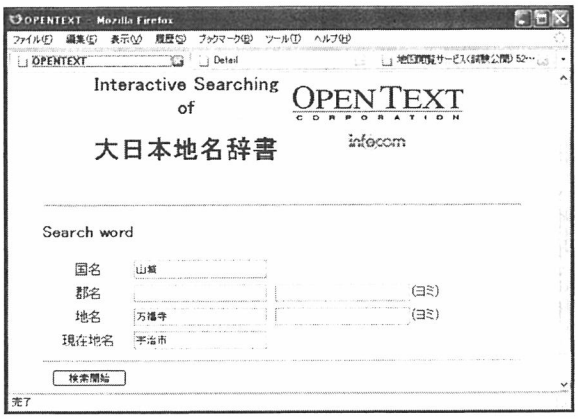

図１．大日本地名辞書検索システムの検索画面

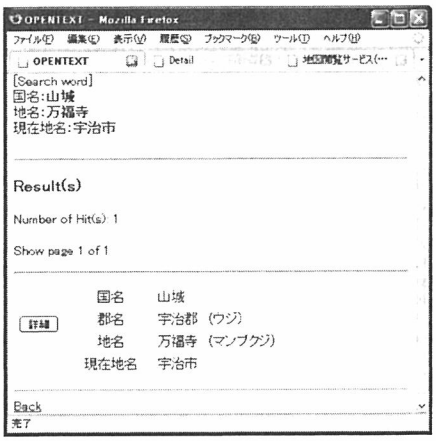

図２．検索システムの検索結果表示画面

図３．検索システムの検索結果詳細表示画面

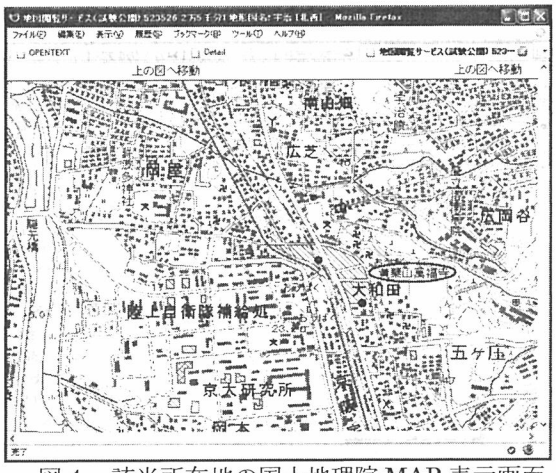

図４．該当所在地の国土地理院 MAP 表示画面

４．地名属性からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況

地名辞書の研究は、考古学、言語学、民俗学、歴史学、国文学、信仰・文化、地誌、地域研究といった人文科学の各分野の研究にとって重要な役割を果たし、またそれら関連分野の共同研究支援に有効である。

北海道から沖縄（琉球）までの全国の行政地名だけでなく神社名、寺院名、橋などの建物、河川、湖沼、港湾などの水部、山、岳、峠、坂、谷などの地形などの地名属性を入力することにより、その地方の自然、風土、文化、精神史の研究などにも利用できるように地名辞書データベースを設計し構築した。その地名属性の属性番号を半角数字で対応を取りながら入力した。

行政地名の多くが 2 文字か 3 文字で構成されている。地名辞書（行政地名）の地名文字数の分布を表２に示すが、2 文字からなる行政地名は、全体の 62.83%、３文字からなる行政地名は、全体の 33.62%に達し、両方で 96.45%にも達している。つまり、1 文字や 4 文字以上から構成される行政地名は、3.55%（全体の約 30 分の 1）である。また、今回、地名辞書の行政地名に出現する文字を調査した。多く出現する地名は、「余戸郷」(81 個、0.26%)、「山田」(56 個、0.18%)、「吉田」(48 個、0.16%)、神部郡（48 個、0.16%）、太田（38 個、0.12%）と続く。さらに、地

表２．行政地名の地名文字数の分布

行政地名のみ		
文字数	地名数	%
1	517	1.78%
2	18285	62.83%
3	9784	33.62%
4	488	1.68%
5	26	0.09%
6	3	0.01%
計	29103	

名辞書の行政地名で多く出現する１文字は（郷、田、郡、野、大、と続く）、先頭から 2 文字の数（山田、余戸、大野、神戸、小野、と続く）、先頭から 3 文字（余戸郷、神戸郷、駅家郷、大野郷、山田郷、と続き）ほとんどが「郷名」であった。

大日本地名辞書に記載された地名から「地名属性」の「山」と「岳」（属性番号：31、合計 2,517 件）の全国的分布を図５（○印：山、△印：岳）に示す。「山」は、本州と四国に多く、岳は全国に散らばっているが、どちらかといえば北海道、東北地方北部、九州に多い傾向がある。また、国字（日本で作られた漢字、榊、辻、峠などの類）である「峠」は、当然、山間部に多いが全国的に散らばっており、地域的な違いを見出すことができない特徴がある。これらの全国的分布図を、図６に示す[8]。

図５．地名属性の山と岳（○印：山、△印：岳）の分布

図６．地名属性の「峠」の分布

大日本地名辞書には、神社（地名属性番号：12）が 3,364 社、寺院（地名属性番号：13）が 3,324 寺が掲載されている。大日本地名辞書に出現する神社と寺院の合計数を順位１位から 10 位までの都道府県名と下位の５都道府県名を表３に示す。順位として、京都府(708 社寺)、兵庫県(304 社寺)、三重県(299 社寺)、大阪府(287 社寺)、奈良県(275 社寺)と近畿地方を中心に並んでいる。この傾向は、表４の地名辞書に出現する神社の各都道府県ごとの合計数と同じ傾向を示している。しかし、表５から分るように、寺院の各都道府県ごとの合計数は、京都府(451 寺)、東京都(146 寺)、静岡県(133 寺)、愛知県(130 寺)、神奈川県(130 寺)、福島県(122 寺)というようにかなりの順位の変動がある。基本的に人口が多い都道府県では、神社も寺院も多いことは確かであるが、寺院に対しては、京都府を除けば、関東地方や中部地方に多い傾向がある（当然、関西地方も多い）。

大日本地名辞書に出現する神社数と寺院数の割合は、鹿児島県(神社数：44 社、神社割合：88.00%)、島根県(神社数：106 社、神社割合：86.18%)、鳥取県(神社数：66 社、神社割合：77.65%)、三重県(神社数：229 社、神社割合：76.59%)、宮崎県（神社数：25 社、神社割合：75.76%）となっている。しかし、鹿児島県や宮崎県は神社数も少ないが、島根県や三重県では神社数が総神社寺院数に対して大きな割合を占めている。

歴史学、考古学、民俗学、地誌や地域研究のような人文科学の諸分野の研究において、ある時代や地域についての共時的かつ通時的な比較や考察は重要であると思われる。特に、特定の神社や寺院などの研究においては、地理情報との連携化は、地域との関係の研究、日本人の精神生活

表３．地名辞書に出現する神社と寺院の各都道府県毎の合計数

順位	都道府県	神社数	神社割合	寺院数	寺院割合	合計
1	京都府	257	36.30%	451	63.70%	708
2	兵庫県	201	66.12%	103	33.88%	304
3	三重県	229	76.59%	70	23.41%	299
4	大阪府	172	59.93%	115	40.07%	287
5	奈良県	160	58.18%	115	41.82%	275
6	愛知県	128	49.61%	130	50.39%	258
7	静岡県	112	45.71%	133	54.29%	245
8	東京都	78	34.82%	146	65.18%	224
9	滋賀県	114	52.29%	104	47.71%	218
10	福島県	74	37.76%	122	62.24%	196
			：			
43	青森県	30	60.00%	20	40.00%	50
44	富山県	26	56.52%	20	43.48%	46
45	北海道	21	61.76%	13	38.24%	34
46	宮崎県	25	75.76%	8	24.24%	33
47	佐賀県	19	59.38%	13	40.63%	32
合計		3407	50.09%	3395	49.91%	6802

表４．地名辞書に出現する神社の各都道府県毎の合計数

順位	都道府県	神社数	神社割合	寺院数	寺院割合	合計
1	京都府	257	36.30%	451	63.70%	708
2	三重県	229	76.59%	70	23.41%	299
3	兵庫県	201	66.12%	103	33.88%	304
4	大阪府	172	59.93%	115	40.07%	287
5	奈良県	160	58.18%	115	41.82%	275
6	愛知県	128	49.61%	130	50.39%	258
7	福井県	122	63.21%	71	36.79%	193
8	滋賀県	114	52.29%	104	47.71%	218
9	静岡県	112	45.71%	133	54.29%	245
10	島根県	106	86.18%	17	13.82%	123
			：			
43	富山県	26	56.52%	20	43.48%	46
44	宮崎県	25	75.76%	8	24.24%	33
45	沖縄県	22	27.50%	58	72.50%	80
46	北海道	21	61.76%	13	38.24%	34
47	佐賀県	19	59.38%	13	40.63%	32
合計		3407	50.09%	3395	49.91%	6802

表５．地名辞書に出現する寺院の各都道府県毎の合計数

順位	都道府県	神社数	神社割合	寺院数	寺院割合	合計
1	京都府	257	36.30%	451	63.70%	708
2	東京都	78	34.82%	146	65.18%	224
3	静岡県	112	45.71%	133	54.29%	245
4	愛知県	128	49.61%	130	50.39%	258
5	神奈川県	60	31.58%	130	68.42%	190
6	福島県	74	37.76%	122	62.24%	196
7	大阪府	172	59.93%	115	40.07%	287

8	奈良県	160	58.18%	115	41.82%	275
9	福岡県	65	38.24%	105	61.76%	170
10	滋賀県	114	52.29%	104	47.71%	218
			⋮			
43	島根県	106	86.18%	17	13.82%	123
44	北海道	21	61.76%	13	38.24%	34
45	佐賀県	19	59.38%	13	40.63%	32
46	宮崎県	25	75.76%	8	24.24%	33
47	鹿児島県	44	88.00%	6	12.00%	50
合計		3407	50.09%	3395	49.91%	6802

の研究、その当時の事物や社会の様相を研究する上で重要で資料を提供すると思われる。

5．出雲風土記における畿内七道の国名、郡名、郷名には好字（嘉き字）への改名

風土記は、第43代元明天皇の和銅6年（713年）5月に発せられた官命の第1項で、「畿内と七つの道との諸（もろもろ）の国・郡（こおり）・郷、名を好（よ）き字を著（つ）けよ」とある。どのように改名されたかについて分析する。

しかし、実際には郡と郷に関してだけの改字になっている。好き字として、地名は漢字二字で書くのを好いと感じたこと、古代中国の地名が漢字二字であったことも影響している。また、坂本太郎氏は、大体画の多い、いかめしい字に改めたと言っておられる。出雲風土記では、郡ごとに改字の一覧表を掲げている。たとえば、意宇（おう）郡の場合、郷壹拾壹(里卅三)　餘戸壹　驛家參　神戸參(里六)　嶋根郡　郷捌(里廿四)　餘戸壹　驛家壹

母理郷　本字文理　　屋代郷　今依前用　　楯縫郷　今依前用　　安來郷　今依前用
山國郷　今依前用　　飯梨郷　本字云成　　舍人郷　今依前用　　大草郷　今依前用
山代郷　今依前用　　拜志郷　本字林　　宍道郷　今依前用

というように、今依前用（今も前に依りて用いる：改字せず）、本の字は○なり（改字）のように一覧表を掲げている。図6に、出雲風土記の「好き字」の改名を示す。改名された地名が、26個(40.62%)、前のままの地名が38個（59.38%）をどうみるか？もともと地名は2字が多かったことも考えられること、また官命が地方ではきっちり実行されなかったこともあるのではないかと思われる。しかし、地名はその歴史的の風土的にも命名されるためかなりの部分が現在まで残っていることも確認される（前のままの地名55.26%、変更された地名65.38%）。

表6．出雲風土記の「好き字」の改名

	出雲風土記出現数	地名辞書該当数
前のままの地名	38（59.38%）	21(55.26%)
変更された地名	26（40.62%）	17(65.38%)
変更前の地名のみが該当		2
変更前と後の地名が該当		1

前のままの地名が地名辞書にあり

郡	地名	ページ	行
意宇郡	大草郷	98	3
意宇郡	山代郷	98	3
意宇郡	宍道郷	98	3
秋鹿郡	多太郷	152	8
秋鹿郡	大野郷	152	8

変更された地名が地名辞書にあり

郡	地名	元の地名	ページ	行
秋鹿郡	伊農郷	伊努	152	8
楯縫郡	玖潭郷	忽美	166	2
楯縫郡	沼田郷	努多	166	2
出雲郡	漆沼郷	志刀沼	178	1
出雲郡	杵築郷	寸付	178	1

楯縫郡	佐香郷	166	2
楯縫郡	楯縫郷	166	2
出雲郡	河内郷	178	1
出雲郡	出雲郷	178	1
出雲郡	宇賀郷	178	3
神門郡	朝山郷	200	1
神門郡	日置郷	200	2
神門郡	八野郷	200	4
神門郡	古志郷	200	6
飯石郡	熊谷郷	214	3
飯石郡	須佐郷	214	7
飯石郡	波多郷	214	8
仁多郡	布勢郷	224	10
仁多郡	横田郷	224	12
大原郡	神原郷	234	7
大原郡	佐世郷	234	10

出雲郡	伊努郷	伊農	178	1
出雲郡	美談郷	三太三	178	1
神門郡	高岸郷	高崖	200	5
神門郡	多伎郷	多吉	200	8
飯石郡	三屋郷	三刀矢	214	4
飯石郡	飯石郷	伊鼻志	214	5
飯石郡	多禰郷	種	214	6
大原郡	屋代郷	矢代	234	8
大原郡	屋裏郷	矢内	234	9
大原郡	阿用郷	阿欲	234	11
大原郡	海潮郷	得鹽	234	12
大原郡	斐伊郷	樋	236	1

地名が変更されたが元の地名が地名辞書にあり

	地名	元の地名	ページ	行
神門郡	鹽冶郷	止屋	200	3
飯石郡	飯石郷	伊鼻志	214	5

＊変更前の地名も変更後も該当

6．まとめと今後の課題

本大日本地名辞書データベースは、URL：http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei で公開・運用されている[7]。現在、大日本地名辞書に記載されていた神社数 3,364 社と延喜式の延喜式神名帳といわれる第 9 巻と 10 巻に掲載された神社である式内社（2,861 社、そこに鎮座する神の数は 3,132 座）との統合を進めている。また、古事類苑の地部（一、二、三）との統合は一部完成している。古事類苑の地部は、たとえば、地名の経度が地域の中心となる場所を元に相対的に表示されていることが多いこと、緯度や経度が漢数字で記述されているため、それらの変換が必要である。しかし、古事類苑の地部は XML 化されているため、それらの変換は容易であると思われる。さらに、日本寺院データ（約 70,000 件）との統合も計画している。これらの統合は、今年度中に実現する予定である。

当然、地名辞書の役割として我々が共同開発した地理情報共有システム((HuMAP) とのインターフェースを開発し使用可能になっている。

【参考文献】

[1] 桶谷猪久夫、前川武、『式内社データベースも構築と分布の調査』、大阪国際大学紀要「大阪国際論叢」第 20 巻第 2 号、pp.49 - 62, 2007.1.31

[2] 桶谷猪久夫、『JHTI (Japanese Historical Text Initiative) Project: 日本古典史料の英日全文連携検索システムの構築』、異文化コミュニケーション研究ー探求・発見・教育ー、国際コミュニケーション学科編集委員会、pp.99 – 125、2007.3.1

[3] 吉田東伍著、『大日本地名辞書　第 1 巻～ 8 巻』、冨山房、明治 40 年 10 月 13 日初版

[4] 新訂増補　國史大系、『延喜式前篇』、吉川弘文館、1979.5.20, pp.1 - 322

[5] 式内社研究会編纂、『式内社調査報告　第 1 巻～第 24 巻』、皇學館大学出版部、1979.2.20

[6] 秋本吉郎校注、『風土記（出雲風土記）』、日本古典文学大系 2 、岩波書店、1980, pp.93 - 256

[7] http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei,「大日本地名辞書データベース」ホームページ

[8]「ArcGIS 9 ArcMap ユーザーズ・ガイド」、ESRI ジャパン株式会社、pp.3 - 587, 2004.7.12